（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373500309		
法人名	有限会社　スピリッツ		
事業所名	グループホーム　淳厚苑		
所在地	岡山県津山市加茂町塔中105番地		
自己評価作成日	平成24年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3373500309-00&PrefCd=33&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13－1　県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成24年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・　その人のペースで生活ができ、自分の個性を出せている。
・　自宅では落ち着かず家族が疲れてしまっていたが、ホームでの生活で、自分の場所が持てて笑顔となり、生活改善ができて家族も度々来られ安心できる。
・　職員も利用者も自分のしたい事はできる場であり、家族同様の生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

このグループホームを運営する母体は、この地に地域密着型特定施設生活介護老人ホームを今年3月開設した。木材を多く使い住み心地の良い29室のホームには母体医院の先代院長は収集、又自分で使っていた医療器具や蔵書を陳列した博物館と言うべき部屋も作り、この地は市の文化センターや保育・幼稚園や小学校と共に文化福祉地域となった。このグループホームは9年前開設され、管理者と職員が自由に物言える間柄で“真心で家族の味わい”を理念とした利用者が真から寛げる雰囲気を続けている。今までの管理者が、これらのホームを総括して管理するようになり、2つのホームがこの地域の中で、もっと外にも出られ、家庭的な落ち着いた生活の場に仕上げていくだろうと期待できる。このホームが9年間の伝統的に作ってきた干支が、この正月で10枚になる。日常の生活の中でも文化的な要素も取り入れて、利用者の思いや希望も高めていきたいとしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入り口に手作り理念を掲げ、毎日共有し、理念に近づけるよう努めている。	「真心で家族の味わい」手作りの作品が正面カウンターに掲げてあるのが目に飛び込んでくる。真心と言う尊さが人間としての交わりとなって、このホームをまるごと包んでいるような暖かさを感じた。	自己評価の意義としてホームで行う諸業務の内容を細分化したものが自己評価する55項目であり、その一つひとつの達成評価するものがホームの業務アセスメントだと考える。そして理念は自己評価全体として掲げた内容がどの程度達成できているのかを評価してもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ホームを知ってもらう為 ①幼稚園・保育園へ卒業プレゼントをする。（手作り人形） ②加茂温泉へ作品展示③祭り神輿での交流 ④町文化祭出品　（22・目標計画達成）	敷地内に特定有料老人ホームが開設し、そこの文化教室に参加し、地域の受講生と一緒に作品作りを行っている。又、隣接の文化センター、公民館、幼稚園、小学校等、公共施設の行事や作品展に地域住民としての参加が恒例となっている。22年度の目標計画達成に組み入れてよく実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・　地域ケア会議を利用し、知識を生かし支援方法、対応の仕方を広報している。 ・作品作りをし、生きがいを持ち、地域の人々と交流の場を持つ。（市・包括支援センター・民生委員等、問題ケースへの対応方法）		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・　防火訓練に実際参加してもらう。 ・　現在起こっている問題を事前に報告し話し合う。 ・家族が出来るだけ参加できるよう声かけを上手にする ・　必ず面会してもらう　（22・目標計画達成）	特定有料老人ホームと合同で2ヶ月に1回開催している。このホームの家族も毎回3～4名は出席があり、「水分補給」や「掃除を手伝わせて欲しい」「里心がつくので訪問を遠慮している」等忌憚のない意見が交わされ、よく反映されている様子が会議録から伺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケア会議に参加し、市・各事業所と連携をとっている。 ・常に相談しながら協力を築いている。	運営推進会議には毎回出席し、祖堂、アドバイスが得られている。地域ケア会議でも関係機関との連携はよくとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関には常に開放し、徘徊する人には寄り添うようケアをする。	常時3～4名の職員体制を敷き、ゆとりの中で見守りが出来ているので、利用者も職員も皆が家族の一員としてそこに居ると言う伸び伸びムードが溢れ、拘束等無縁のホームのホームの暖かさを感じた。いつも外に出たがる男性利用者には、よく寄り添い「外へ行くん？」と二人で部屋を出て行き、にこやかにすぐ戻ってくる微笑ましい光景を見ることが出来た。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・身体観察をし、変化に気付く目を持ち、会議でマニュアルをもとに話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・重度化に伴い、次のサービス利用につなげるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・運営推進会議や個別での説明をし、納得され同意してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議での意見は職員会議に於いて職員に伝え、運営に反映させている。 ・家族の意見は申し送りしながら、記録に入れながら全員に伝えて反映させる。	個別の面会時の会話を重視し、更に運営推進会議の公の場でも意見を出し易いアプローチを行ない、記録して全員が共通認識を持って反映させる努力を行っている。利用者からは仲間同士の日常の会話の中から思いを発見するように努めている。思わぬ深い思いに触れることがあり、反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月一回の職員会議（全員参加）や毎月のミーティングで気付いた点や意見を聞き、話し合って即反映させている。	このホームの職員の定着は、9年目となる開設以来の人が3名、それに続く人が多く、平均年齢50代との事。豊かな人生経験と思慮深さの上に立ち、仕事に対する遠慮のない話があるそうだ。誰に問うてみても「職員さんがいつから」と同じ返事が返ってきた。職員さんの“当り前の事でしょ”という気負いのない表情が印象に残った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施している。 ・毎年契約時に各人面接を行い、意見を話し合い、働きやすい職場にしている。 ・交付金の支給により職員のやりがいを見付ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している。 ・資格取得に向け情報提供したり勉強の仕方を協力している。 ・実践の中にアドバイスを入れながら実施。 ・施設内研修を月1回とり入れる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施している。 ・地域事業者の参加する研修に参加し、職員会議にて実践し、質の向上を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所した時は特に不安であり色々な症状がみられる。出来るだけ1：1で対応し、一人ではないということに気付いてもらい、信頼を得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所時は環境変化が大きく、家族は今迄の不安から開放されるが利用者は負担が増える。 ・家族の意見を聞き、相談しながら関係づくりをしている。 ・面会を出来るだけお願いする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・困っている事を優先しながら楽しめるような対応をする。（1：1の対応により安心できるようにする）		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で、できることをして協力し合える関係を保っている。（片付け、掃除、洗濯たたみ等）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・都合のつく限り来て頂き、リビングで他の利用者も交え話をしたり、家族の心配を少なくする為に「できる」事を報告して安心してもらい、良い関係を作るよう努力している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・元気な時にカラオケクラブに入っていた人は、カラオケ大会見学に行ったり、近隣と話したい人は家に行ったり近所へ遊びに行き、本人の喜ぶ顔を見る支援をしている。	念願だったホーム専用の車の購入が実現し、野菜の調達や、途中、利用者宅に立ち寄る等、用事に便乗した懐かしい場所へのお出掛けが実現している。又、隣接の文化センター、公民館等へ出向けば、地域の人と出会える事も楽しみの一つとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。 ・テレビの風景を見て画像で楽しみ会話が弾む。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他の施設へ利用者と一緒に訪問したり、入院先へ見舞に行ったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何回も繰り返し話しをしたり、困難な場合は顔の表情や体の動きを見て把握している。	顔の表情や仕草から読み取る普段からのきめ細かい観察力も養う。一方、利用者同士間の会話から思わぬ奥深い思いを知る事も多いので、さりげなく耳を傾ける事も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者との会話、面会者や家族のちょっとした事を把握している。 ・利用者の表情を見ながら把握もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の申し送り、毎月の職員会議、日誌、個人記録等により把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月１回の会議や日々の工夫、家族の意見、運営推進会議での意見等を取り入れ作成している。	健康チェック表や業務日誌等の詳細な記録物から利用者の日常の捉え、家族から掃除をさせて欲しい等の生活リハビリプランに組み入れ、定期のモニタリング作業を行っている。	今年から新しいケアマネージャーが就任した。このホームの運営に当たり、この男性の関わり方に大変興味を抱いている。是非今までも素晴らしい運営をしてきたこのホームであるが、少し視点を変えたこのホームの変化に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・できること、できないことが日々変わる事があるが、小さな変化を見つけ、計画を変えて見る等反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出したい時には外出したりその時その時を大切にし対応する。1日に何回も外へ行く人は付き添う		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・神社参拝やカラオケ大会に応援へ行ったり、町文化展へ出品し協力している。 ・温泉ブームで加茂温泉の一角に作品展示場を作り、年数回交代に行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院が同一敷地内にある為、急変時や小さな変化も即対応出来る。 ・専門科（精神科）受診も継続し、季節時変化に対応出来るよう支援。 ・家族希望で独自受診を支援する。	入所者全員が階下のオーナーが主治医なので、週2回の定期受診の便宜さや夜間の対応も可能な点で本人も家族の非常に安心である。専門医の受診は家族対応としているが、出来る限りの支援に力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一敷地内に病院があるので、迅速、適切な対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院初診については家族に様子を伝え、付き添ってもらう。（利用者の状態は書面で渡す） ・1週間に1回見舞い、家族との話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・夜間時、職員が一人となる為対応できないので、家族と話し合い、協力を求め夜間付き添いが可能であれば、話し合っての対応ができ支援可能である。 ・看取りも相談に応じている。	主治医と家族、職員の協力を得て、過去に3件の事例があり、家族に大変喜ばれている。関係者の理解を得ながら時代の要請に応えられるよう、積極的に取り組もうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議において、急変時や事故発生時の勉強の時間を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に1回、総合訓練を実施している。毎月の職員会議において即対応出来るように訓練している。 ・火災だけでなく土砂災害、地震時の対応も考え、意識づけをしている。 ・地域消防団に見学に来てもらい、協力をお願いしている。	2階住まいなので、避難経路はエレベーターと玄関からの内階段、2階のベランダからの外階段の3ヶ所になり、リスクは非常に大きいと言える。このことを踏まえ、消防団にも構造物を確認してもらい、日頃からの意識付けと訓練を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自然体で、家族のようにその人に合わせて馴染みの会話で対応している。	職員はトイレ介助、入浴時のバスタオルの活用、入室時のノック等、支援者としての配慮は徹底している。利用者は集団生活と言う多少の規範がある事を理解しながら、遠慮のないやりとりが出来ているのが、伸び伸びとしたこのホームの一番良いところかも知れないと職員が話していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・会話を大切にし、表情や顔色を見ながら自己決定を出来るようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課にとらわれることなく本人の希望通り付き添い、外出等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ほつれやボタンが取れたり等を修理したり、汚れをとったり、重ね着の調整をしたり等、気付いた時に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・楽しめるように目の前で調理したり、畑から土をつけて収穫し、きれいにしてもらったりして意欲的に手を出せるよう工夫している。	食事の楽しみ方として、野菜の収穫、しょうやく、美味であること、皆と一緒に食すこと、全てが程良く調和しているホームであると感じた。ワゴン車を取得して初めてジャスコに行ったとの事、外食を楽しむ機会も益々多くなっていくことでしょう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分はいつでも飲めるようカウンターに置ている。 ・食べる時おかわりできるようにし、それぞれの利用者に対応し、野菜中心に栄養バランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、声かけをしている。出来ない方には介助し、出来る方には準備をして見守る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にてパターンを共有し、利用者の力を活かし、トイレでの排泄に向け支援している。	自立と見守り歩行者が殆んどのこのホームでは、不安なく自分の力でトイレに行けることを目指し、トイレの場所の表示物を分かり易い物に変えていこう考えているそうだ。個人的には排泄記録に基づいた支援により、おむつから紙パンツに改善し、家族から喜ばれている事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・2日に1回の排便を目指し野菜中心に食事を出し、食前には運動をして支援している。 ・外出を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・基本的には決めている。	季節により、入浴回数、方法は変化する。あくまでも利用者の希望を受け入れ、家族風呂に近い浴室で楽しんでもらっている。入浴嫌いの人には職員がドクターを装い、診察まがいの対応で、ことなく清潔保持につなげている事例があった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを崩さないようにしながら休む時間を作り（昼）、安心して眠れるよう電気や冷暖房に注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解できるように変化時には一覧記録をし、理解して薬の管理が出来るようにしている。 ・日々バイタルチェックをし、変化の確認をしながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・誕生日には好きな物を作り楽しみにしたり、ドライブに行ったり、散歩をしたりして楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・実施している。 （実家へ行く、ドライブ等） ・買物、食事へジャスコに行くが、職員全員により支援している。	ワゴン車の取得により、今まで叶わなかったジャスコへ皆で行って楽しめた事、野菜の調達が寺利用者宅へ足を延ばす等、気軽に楽しむ事が出来ている。又、敷地内の特定ホームの文化教室に参加するのも、お出掛けムードで楽しみとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物はするが、お金を払える人が今はいない。持っている人には支援できる体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・実施している。 （面会時パンフレットを渡し、いつでも電話しても良い事を説明している）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施している。 （空間が狭いが工夫している）	オーナー医院の2階を活用したホームのリビング部は食卓で一杯と言う狭さであるが、座り心地の良い椅子に深々と座り、肩を寄せ合うように9人全員が談笑している様は、却って親近感が生まれ易く、安心と楽しさがある様に感じた。狭いながらも気持はのびのびと皆が明るい」と職員が話してくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを2ヶ所置き、仲良し同士が話ができ、友達同士がお互いの部屋で話したり、一人でベットの中で雑誌を読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・持ち込み自由であり、使い慣れたものをボロボロになるまで持ち安心できるようにしている。 ・リサイクルをして使用を継続する方法をとっている。	ベッド、脇机、押入れが備え付けられているので、どの居室もシンプルそのものである。自分らしさと言う点では今一つの感があるが、部屋づくりは家族に委ねているとのこと。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・実施している （直線廊下を工夫している）		